

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 9 月 8 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	松島 慶

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
マレーシア、ペラ州、ブルム・テメンゴール森林地帯
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
マレーシアの塩場での環境 DNA による哺乳類生息相調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 8 月 29 日 ~ 平成 29 年 9 月 8 日 (11 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
マレーシア科学大学、Shahrul 教授/プラウバンディング財団、Hamiazrim さん
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本渡航では、ブルム・テメンゴール森林地帯に点在している塩場——多くの生息動物が集まるエリアにおいて環境 DNA を取得し、周囲の生息動物もしくは塩場の利用動物について明らかにすることを目的として、調査を行った。塩場には主に、動物たちが土壌などの固体を利用しているドライタイプと、水源を利用しているウェットタイプの 2 種類が知られているが、本調査では、ウェットタイプのみを対象とした。調査地としたブルム・テメンゴール森林地帯では、以前より上級学生の田和優子さんがカメラトラップを用いた塩場利用動物種調査を行っているほか、地域全体の生息生物についても調査が進められており、それらの情報と比較することで、環境 DNA による調査の有効性についても検討できると考えている。</p> <p>本渡航は、京都大学野生動物研究センター特定助教の岸田拓士博士に同行いただき、レンタカーの運転およびサンプル採取において多大なる支援をいただいた。</p> <p>まず、調査地に入る前に、ペナン州にあるマレーシア科学大学に訪問し、従来よりブルム・テメンゴール森林地帯をよく知る Shahrul 教授と打ち合わせを行った。Shahrul 教授には調査地のスタッフへ協力を手配していただき、そのおかげで調査地では潤滑な話し合いと調査を行うことができた。</p> <p>続いて調査地であるペラ州のブルム・テメンゴール森林地帯に車で移動し、調査を行った。調査自体は主に 2 日間で行われ、1 日目は事務局の Hamiazrim さん及び調査員の Shaiful さんと調査の内容について打ち合わせを行った後、ボートでテメンゴール地域の塩場 1 箇所へと訪問し、サンプル採取を行った。2 日目は、調査員の Najmi さんらと共に朝からボートで移動し、テメンゴール地域の塩場 3 箇所を回りながらサンプル採取を行った。</p> <p>今回訪問した 4 つの塩場は全てブルム・テメンゴール森林地帯の南側に位置するテメンゴール地域に存在するものであったが、水の量・温度・pH、周囲の様子が異なっており、検出される動物種に違いがあることが期待される。また、うち 2 つの塩場においては、周囲に小川が流れていたため、そこからサンプルを採取し、塩場と周囲の小川で違いが出るかどうか検討を行う。</p> <p>今回得たサンプルは後日、千葉県立中央博物館の協力の下 DNA の抽出を行い、京都大学野生動物研究センターにてシークエンス及び解析を行う予定である。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



同じ塩場と呼ばれる地点でも、環境が大きく異なっている



周囲一面にゾウ糞が散らばっているような塩場もある



塩場間は船で移動する

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本調査は PWS ほか GET-Bio の支援を受けて行われました。また、調査はブラウバンディング財団と共同で行っております。